

スーパーマーケット販売統計調査資料

2018年10月実績 速報版(パネル270)

9月実績 確報版(パネル270)

(2018年11月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2018年10月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,939,182	100.0%	101.4%	100.3%
食品合計	80,635,101	90.7%	102.0%	100.7%
生鮮3部門合計	30,894,251	34.7%	103.5%	102.1%
青果	13,015,199	14.6%	109.4%	108.0%
水産	7,456,522	8.4%	101.8%	100.4%
畜産	10,422,530	11.7%	98.0%	96.6%
惣菜	9,217,961	10.4%	104.7%	102.9%
日配	17,527,264	19.7%	101.2%	100.0%
一般食品	22,995,625	25.9%	99.7%	98.6%
非食品	6,075,614	6.8%	97.1%	96.8%
その他	2,228,514	2.5%	96.0%	97.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,113,633	43	98.9%	97.3%
関東地方	33,029,528	73	101.7%	100.4%
中部地方	10,798,996	53	101.6%	100.4%
近畿地方	19,167,038	44	102.3%	101.9%
中国・四国地方	8,952,516	34	101.7%	100.0%
九州・沖縄地方	4,877,470	23	99.7%	100.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	637,841	45	94.5%	96.0%
4~10店舗	3,910,200	73	100.4%	99.5%
11~25店舗	9,684,483	62	98.9%	99.2%
26~50店舗	16,109,078	46	100.4%	99.3%
51店舗以上	58,597,579	44	102.1%	100.8%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	86,729,317
総店舗数 (店舗)	7,936	店舗平均月商 (万円)	11,207
総売場面積 (㎡)	13,153,699	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2018年9月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,942,847	100.0%	103.5%	102.3%
食品合計	80,785,975	90.8%	103.9%	102.6%
生鮮3部門合計	31,035,137	34.9%	104.5%	103.1%
青果	13,333,475	15.0%	106.6%	105.4%
水産	7,433,809	8.4%	102.6%	101.2%
畜産	10,267,853	11.5%	103.2%	101.7%
惣菜	9,158,142	10.3%	104.4%	102.9%
日配	17,687,091	19.9%	103.3%	102.1%
一般食品	22,905,604	25.8%	103.2%	102.0%
非食品	5,763,055	6.5%	100.2%	99.8%
その他	2,393,864	2.7%	103.3%	103.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,346,797	43	105.6%	104.2%
関東地方	33,034,866	73	104.3%	103.1%
中部地方	10,876,619	53	103.9%	102.4%
近畿地方	19,008,614	44	102.2%	101.9%
中国・四国地方	8,932,608	34	103.6%	101.1%
九州・沖縄地方	4,743,343	23	96.3%	96.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	644,015	45	97.4%	99.2%
4~10店舗	3,952,373	73	102.1%	101.2%
11~25店舗	9,628,712	62	101.7%	100.9%
26~50店舗	16,118,239	46	103.2%	102.1%
51店舗以上	58,599,508	44	103.9%	102.7%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	86,814,980
総店舗数 (店舗)	7,929	店舗平均月商 (万円)	11,217
総売場面積 (㎡)	13,127,512	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年10月エリア別気候状況

1. 10月気温の特徴：北日本でかなり高く、東日本で高かった。一方、沖縄・奄美ではかなり低かった。

上旬：北・東・西日本でかなり高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。

中旬：沖縄・奄美でかなり低く、西日本で低かった。北・東日本では平年並だった。

下旬：北日本でかなり高く、東日本で高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。西日国では平年並だった。□

2017年10月との比較：上旬は全国的に、中旬以降は東日本以北でかなり高い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2018年10月			2017年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.4	0.3	1.9	0.4	-3.0	0.1	1.0	3.3	1.8
東北地方	2.9	-0.3	1.1	0.3	-1.6	0.7	2.6	1.3	0.4
関東甲信地方	3.2	0.1	1.0	0.7	-1.1	-0.1	2.5	1.2	1.1
北陸地方	2.1	-0.6	0.5	0.6	-0.4	0.0	1.5	-0.2	0.5
東海地方	2.2	-0.2	0.5	0.7	-0.4	0.1	1.5	0.2	0.4
近畿地方	1.9	-0.4	0.4	0.7	-0.4	-0.1	1.2	0.0	0.5
中国地方	1.8	-0.8	0.0	0.8	0.2	0.0	1.0	-1.0	0.0
四国地方	1.9	-1.2	0.0	0.8	-0.2	-0.2	1.1	-1.0	0.2
九州北部	1.0	-1.6	-0.4	1.5	0.6	0.3	-0.5	-2.2	-0.7
九州南部・奄美地方	0.8	-2.2	-0.6	1.9	1.3	0.3	-1.1	-3.5	-0.9

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 10月日照時間の特徴：北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。

上旬：東日本太平洋側でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、西日本日本海側で少なかった。

中旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なかった。

下旬：東日本太平洋側でかなり多く、北日本、西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かっ。

2017年10月との比較：中旬以降、全国的にかなり長い日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年10月			2017年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	89	117	110	89	92	115	0	25	-5
東北地方	114	85	117	83	49	73	31	36	44
関東甲信地方	139	47	130	114	37	71	25	10	59
北陸地方	105	96	102	86	47	60	19	49	42
東海地方	133	60	129	91	38	70	42	22	59
近畿地方	117	96	119	92	30	70	25	66	49
中国地方	91	97	109	94	31	78	-3	66	31
四国地方	110	105	122	95	28	87	15	77	35
九州北部	84	105	110	91	26	93	-7	79	17
九州南部・奄美地方	115	73	151	112	45	84	3	28	67

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

3. 10月降水量の特徴：東・西日本太平洋側で少なかった。一方、北日本日本海側、太平洋側は多かった。□

上旬：北日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側で多かった。一方、東日本で少なかった。

中旬：沖縄・奄美でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、北日本日本海側と西日本太平洋側で少なかった。

下旬：北日本と東日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側と沖縄・奄美で少なっ。

2017年10月との比較：上旬の北海道・沖縄を除き、全国的にかなり降水量が少なかった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年10月			2017年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	247	73	162	47	92	230	200	-19	-68
東北地方	95	52	120	47	141	422	48	-89	-302
関東甲信地方	32	46	49	75	284	695	-43	-238	-646
北陸地方	68	113	0	60	89	373	8	24	-373
東海地方	30	36	47	123	262	824	-93	-226	-777
近畿地方	41	43	56	139	212	1016	-98	-169	-960
中国地方	32	0	97	264	210	604	-232	-210	-507
四国地方	48	35	59	129	241	915	-81	-206	-856
九州北部	86	0	101	315	392	362	-229	-392	-261
九州南部・奄美地方	167	43	30	76	117	456	91	-74	-426

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

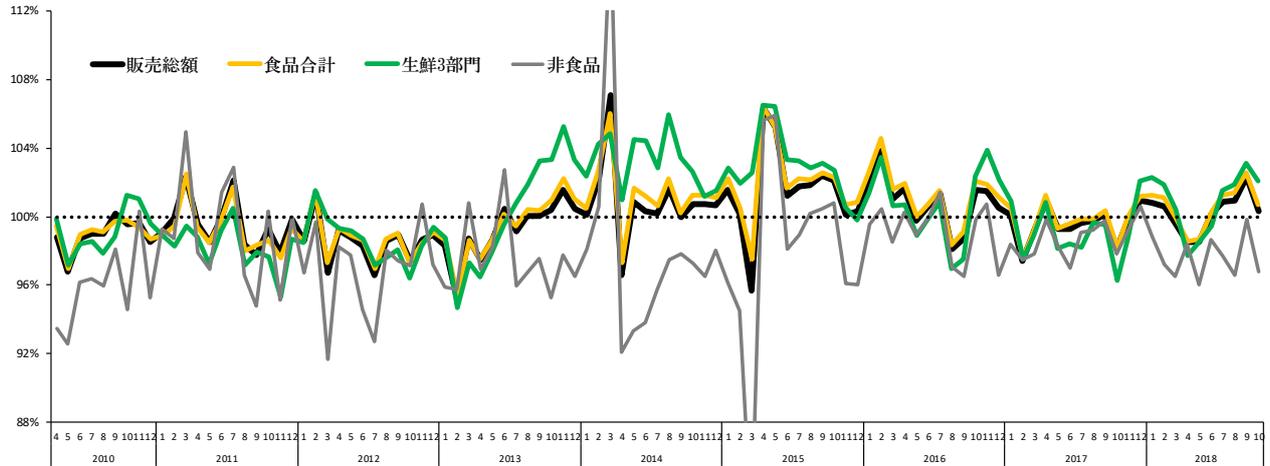
気象庁ホームページ・報道発表資料「10月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

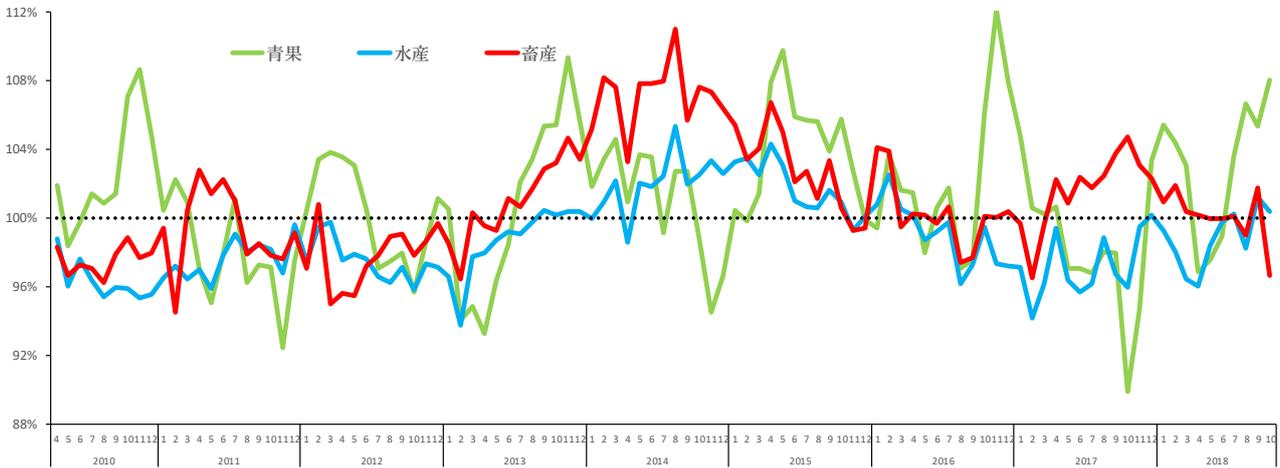
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

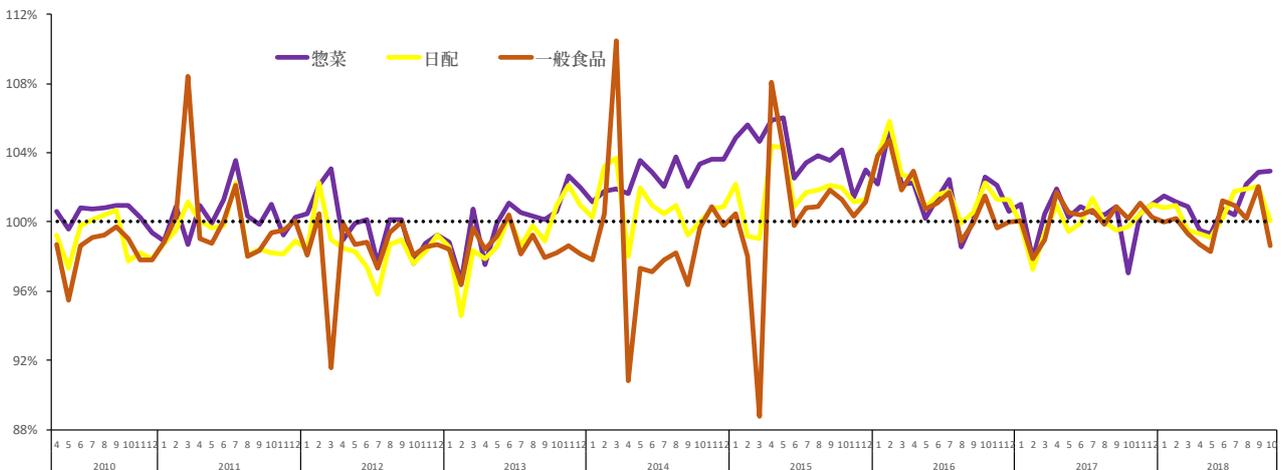
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年9月までは確報版による前年同月比、2018年10月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018年11月調査結果（10月実績）
（2018年11月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

11月調査（10月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに小幅な悪化

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-0.9の47.8、見通し判断は前月から-1.5の45.7となり、どちらも前月から小幅な悪化となった。

経営動向調査では、前月プラス圏を回復した売上高DIであったが、今月は-5.9と再びマイナス圏となった。収益DIも、-5.9と前月から低下した。猛暑や天候不良による青果相場の高騰が続いており、生鮮仕入原価DIは+8.6と高水準を維持していたものの、日曜日が一日少ない曜日巡りや温暖な気候により秋冬商材が不振となり、客単価DIは1.3と大きく減少した。一方来客数DIは、前年週末に悪天候が重なり低迷した反動もあり、-8.5とマイナス幅を縮小した。

カテゴリー動向調査では、前年相場安からの反動が大きい青果DIが19.2、好天による行楽需要の高まった惣菜DIが4.7とプラスを記録した。一方で前年との気温差により鍋需要が低下した影響を受け、畜産DIは-18.7、日配DIは-5.5と低迷した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断ともに特に購買意欲DIや競合DIの悪化幅が大きくなった。一方で、景気判断DIや周辺地域景気判断DIは小幅な悪化にとどまっており、これまで継続している改善トレンド基調には大きな変化はないと推察される。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

10月は好天に恵まれた一方で、季節感を減少させる気温となり売れ筋商品に大きな影響を受けた。生鮮品でその傾向は堅調だが、好不調要因が当月だけでなく、前年からの影響も大きく受けており、カテゴリー別の数値で振れ幅がやや大きくなっている。そのため、足元の基調判断は、カテゴリーの好不調だけでなく、ゆるやかな回復を維持している景気判断DIの今後の動向も合わせて注視していきたい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：47.8 (-0.9) 前月：48.7	消費者購買意欲DI 当月：45.7 (-3.2) 前月：48.9	周辺地域 競合状況DI 当月：40.9 (-3.0) 前月：43.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.8 (-1.1) 前月：47.9
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：45.7 (-1.5) 前月：47.2	消費者購買意欲DI 当月：45.7 (-2.1) 前月：47.8	周辺地域 競合状況DI 当月：39.2 (-3.2) 前月：42.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.5 (-1.1) 前月：47.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-5.9 (-6.7) 前月：0.8	客単価DI 当月：1.3 (-10.1) 前月：11.4	来客数DI 当月：-8.5 (+3.5) 前月：-12.0	
収益DI 当月：-5.9 (-4.2) 前月：-1.7	販売価格DI 当月：4.6 (-1.6) 前月：6.2	生鮮品仕入原価DI 当月：8.7 (-0.2) 前月：8.9	食品仕入原価DI 当月：3.2 (-1.3) 前月：4.5

カテゴリー動向

青果DI 当月：19.2 (+8.5) 前月：10.7	水産DI 当月：-1.6 (+0.5) 前月：-2.1	畜産DI 当月：-18.7 (-17.7) 前月：-1.0	
惣菜DI 当月：4.7 (+0.1) 前月：4.6	日配DI 当月：-5.5 (-4.3) 前月：-1.2	一般食品DI 当月：-10.8 (-11.1) 前月：0.3	非食品DI 当月：-12.4 (-8.2) 前月：-4.2

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

11月調査（10月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

前月プラス圏も再び下落

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	7.9	27.0	27.0	30.2	7.9	0.8
売上高（当月）	9.5	34.2	30.4	22.2	3.8	-5.9



2. 収益DI

下落しマイナス幅をやや拡大

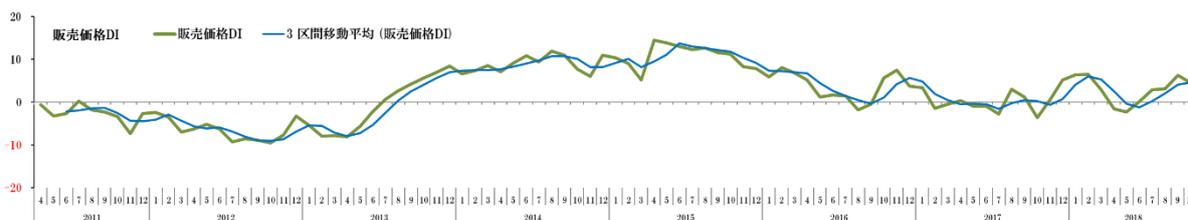
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	6.5	32.3	29.0	26.3	5.9	-1.7
収益（当月）	9.6	30.8	34.6	23.7	1.3	-5.9



3. 販売価格DI

やや下落もプラス圏を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	8.5	59.6	30.3	1.6	6.2
販売価格（当月）	0.0	9.4	63.5	26.4	0.6	4.6



4. 客単価DI

前月二桁プラス圏から一転し、大幅な下落

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	11.2	32.4	51.6	3.7	11.4
客単価（当月）	1.9	24.2	40.8	33.1	0.0	1.3



5. 来客数 DI

小幅に上昇し、二桁マイナス水準から回復

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.2	46.0	28.9	11.8	3.2	-12.0
来客数 (当月)	9.5	38.0	32.9	16.5	3.2	-8.5



6. 生鮮仕入原価 DI

横ばいで推移し、高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.2	7.5	45.2	43.0	2.2	8.9
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	5.2	56.9	35.9	2.0	8.7



7. 食品仕入原価 DI

小幅に下落も、プラス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.1	7.5	62.0	26.7	1.6	4.5
食品仕入原価 (当月)	0.6	7.7	70.5	20.5	0.6	3.2

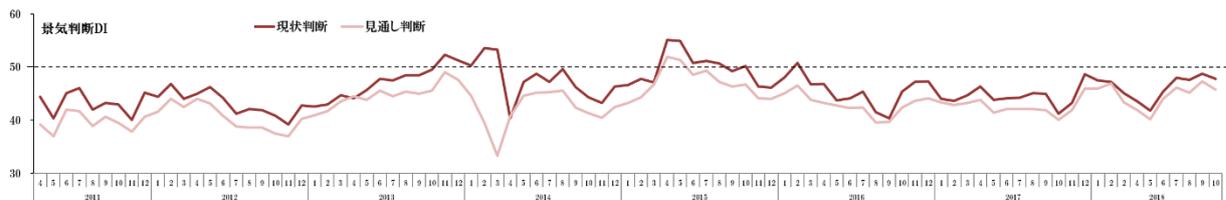


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な悪化

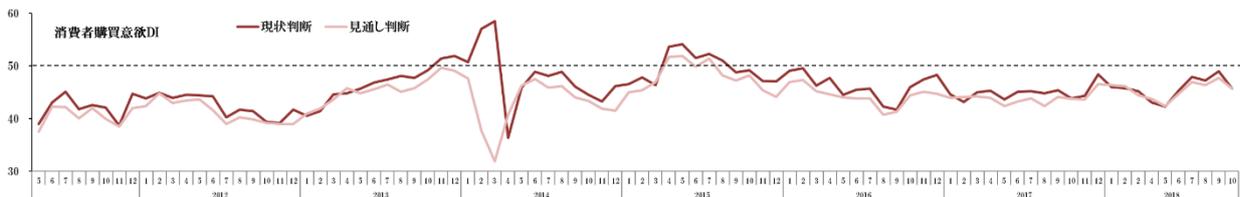
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.1	18.9	65.8	12.6	1.6	48.7
【現状】景気判断 (当月)	0.6	20.1	67.3	11.3	0.6	47.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.6	20.5	66.3	10.5	1.1	47.2
【見通し】景気判断 (当月)	0.6	24.7	66.5	7.6	0.6	45.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.6	13.7	73.2	10.5	1.1	48.9
【現状】購買意欲 (当月)	0.6	22.2	70.9	6.3	0.0	45.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	15.3	76.8	7.4	0.0	47.8
【見通し】購買意欲 (当月)	0.6	19.7	75.8	3.8	0.0	45.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に悪化

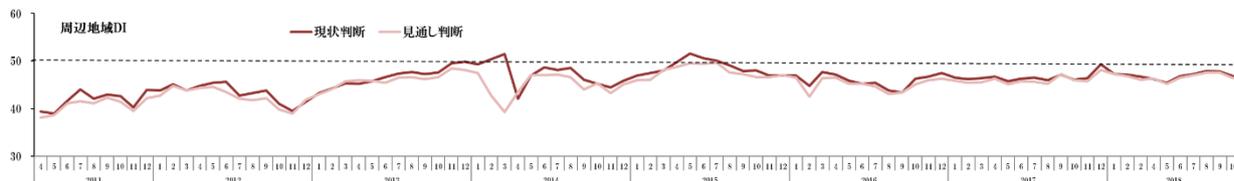
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.2	21.6	71.6	3.7	0.0	43.9
【現状】競合状況 (当月)	5.0	30.2	61.6	2.5	0.6	40.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.8	22.6	67.9	3.7	0.0	42.4
【見通し】競合状況 (当月)	6.3	32.9	58.2	2.5	0.0	39.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

小幅に悪化も、高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	10.6	87.2	2.1	0.0	47.9
【現状】地域景気 (当月)	1.3	12.1	85.4	0.6	0.6	46.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	12.2	85.1	2.7	0.0	47.6
【見通し】地域景気 (当月)	1.3	13.5	84.0	0.6	0.6	46.5



※長期傾向 (2010年4月～)

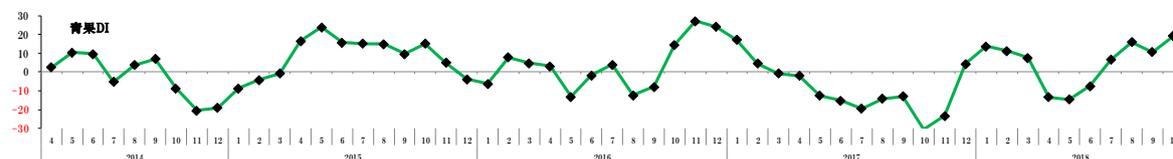
11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化傾向が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は改善傾向が続いていたが、10月にやや悪化している。



Ⅲ.カテゴリー別動向

1. 青果DI：19.2（好調）

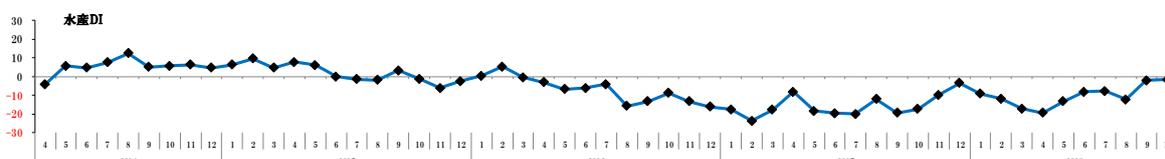
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.8	18.1	21.4	44.5	12.1	10.7
青果（当月）	1.9	9.7	20.8	44.8	22.7	19.2



夏場の猛暑や台風の影響、北海道胆振東部地震の影響により根菜類で前年に比べやや相場高となり一品単価が上昇しているが、値頃感は維持しており、数量が大きく減少せず販売できたことで好調となった。平年より高い気温により、鍋物用食材の動きは悪いが、レタスやミニトマト、キュウリなどのサラダ商材やカット野菜は好調となった。TV報道の影響でマイタケに特需がみられた店舗もあった。高値で推移している果物類も総じて好調となっており、国産ではりんごやぶどう、みかんなど旬のフルーツ、輸入果物ではキウイフルーツが好調とする店舗が多い。

2. 水産DI：-1.6（やや不調）

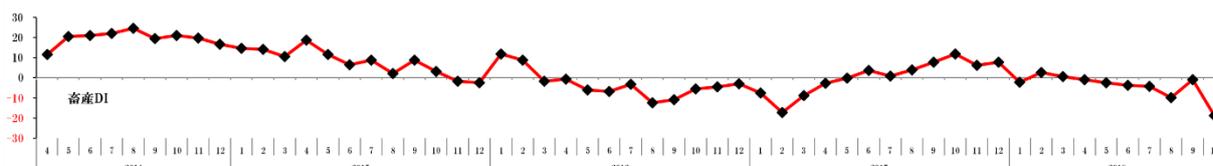
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.2	32.6	27.6	26.5	6.1	-2.1
水産（当月）	8.4	27.9	31.2	26.6	5.8	-1.6



前年不漁・高値で不振となった旬のさんまは、今年は漁獲量が回復し、相場が低下したことで前月からの好調が続いている。一方で、平年より高い気温により鍋物用食材（牡蠣やタラなど）は動きが悪かった。秋鮭を好調とする店舗が多いが、相場が安定せず苦戦した店舗もみられた。刺身類は好不調まちまちとなっているが、カツオには前年のアニサキス報道からの反動もみられた。価格が高騰しているうなぎは不調となった。

3. 畜産DI：-18.7（不調）

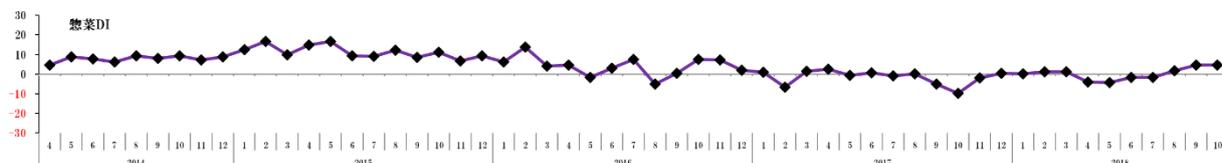
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.9	28.6	35.7	26.9	3.8	-1.0
畜産（当月）	20.1	42.9	28.6	8.4	0.0	-18.7



日曜日が一日少ないなかでも焼肉・ステーキ用牛肉を中心に比較的好調となった店舗もみられるが、平年より高い気温に加え、前年野菜の相場安で伸長した鍋物需要が大きく落ち込み鶏肉や豚肉を中心に不調となった。加えて鶏肉や豚肉は相場が下落傾向にあり単価下落した影響も受けた。加工肉は引き続き不調とする店舗が多かった。

4. 惣菜DI：4.7（やや好調）

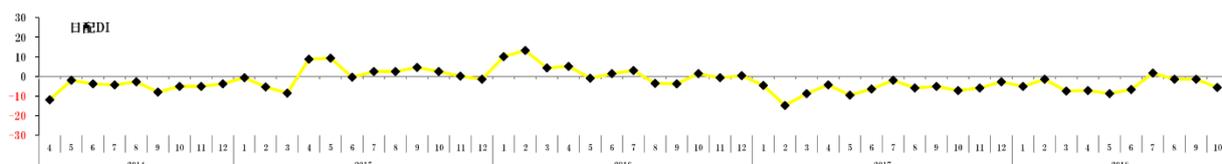
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.5	16.9	41.6	29.8	7.3	4.6
惣菜（当月）	5.3	18.0	36.0	34.0	6.7	4.7



日曜日が一日少ない曜日巡りではあったが、前年週末悪天候により行楽需要に影響が大きかった反動があった地域もあり、米飯類、唐揚げの動きがよく、やや好調となった。ポテトサラダの食中毒報道からの反動増や青果相場の高騰によりサラダ関連が好調であった。旬の食材を使ったメニュー提案などが成果をあげている店舗もみられた。寿司類は好不調まちまちとなった。

5. 日配DI：-5.5（やや不調）

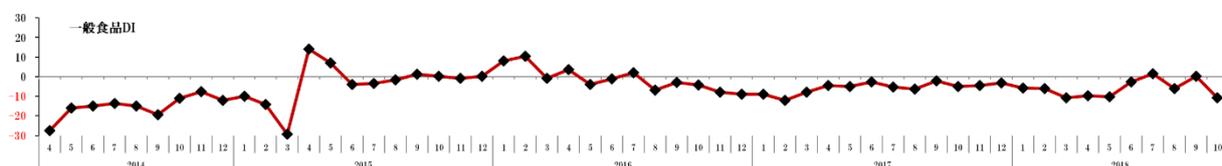
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.1	28.2	35.4	25.4	5.0	-1.2
日配（当月）	7.8	28.6	43.5	18.2	1.9	-5.5



気温が高めで推移したため、和日配では鍋物やおでん商材、また麺類などのホット商材の動きが悪かった。健康報道により、納豆や梅干し、漬物（キムチ）が好調、カニカマにも特需が続いている。牛乳やヨーグルト、パン類は好調とする店舗と不調にあげる店舗にわかれている。周辺店舗との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。

6. 一般食品：-10.8（不調）

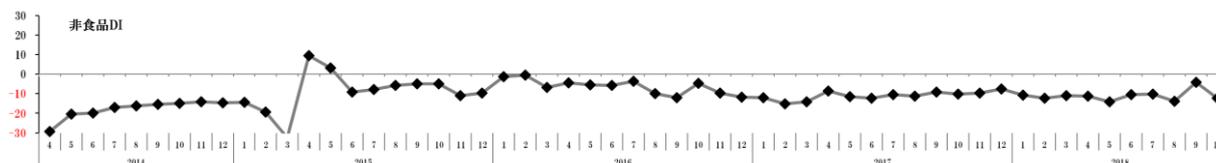
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.0	25.1	39.7	24.0	6.1	0.3
一般食品（当月）	11.9	33.1	41.7	12.6	0.7	-10.8



気温が高めに推移した影響で鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材は総じて不振となったほか、単価の上昇が一巡した米類は伸びなやんだ。ハロウィンに関連した菓子類は好調、報道によりサバ缶に特需が発生している店舗がみられた。野菜の相場高によりドレッシング類は不調となった。飲料はやや好調となったが、アルコール類は不調とする店舗が多かった。周辺店舗との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-12.4（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.7	24.3	38.2	16.8	8.1	-4.2
非食品（当月）	14.3	35.4	36.7	12.9	0.7	-12.4



気温が高く、カイロなどの冬物の動きが悪かったほか、タバコには増税の反動減がみられた。ホームセンターやドラッグストアなどとの競合の影響が大きく、日常使いする家庭用品を中心に販売の低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2018年11月調査（10月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日少ない
2. 好天・気温が高い
3. 青果相場高（前年比）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10月実績速報版 159社
 9月実績確報版 190社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp